研究テーマ：環境調査改善研究会（NPO）　　教員・学生共同ベンチャー事業	
研究代表者（職氏名）：教授　三好康彦	所属：生命環境学部環境科学科
共同研究者（職氏名）：学生２年　大内達也、学生２年　川端勇司、学生３年　岩垣隼人、等。	

環境測定や環境改善に関心を持つ学生を対象に学生と NPO 法人を立ち上げ、庄原市をはじめ中山間地域の水環境をはじめその他の環境調査、改善を目指して設立することを目的とした。学生は主に１・２年生を対象としたが、それだけでなく３・４年生，大学院生に対しても呼びかけた。その結果、10 名以上の学生が関心を寄せた。環境分析の訓練は平成 18 年 9 月から開始した。

NPO 法人（環境調査改善研究会）の設立準備も同年 9 月頃から開始した。NPO 法人設立について、不慣れなところがあり、多くの困難があったが、11 月 22 日には設立総会を行うことができ、その様子は中国新聞の県北版にも記載された。

NPO 法人は平成 19 年 5 月 25 日に登記が終了した。一方、学生に対する分析能力の訓練は、授業時間の間や休日、土・日などで行ったが、アルバイト等で十分な時間が取れないこともあり、予想以上に分析能力の習得時間を要した。

学生の分析訓練は、三好研究室の機材を使用し、使用薬品は重点研究で配布された予算で購入した。　西城川などのフィールドの調査では、安全の点から教員（三好）が自家用自動車を運転し、学生を同乗させて行った。

学生の環境分析能力向上については、土日や休日などを利用して訓練した結果、4～5 名の中心的に活動する学生が十分な能力を得たが、その他の学生はまだ練習が必要な段階である。

西城川、地下水、戸郷川などの水質を測定し、学生が環境の現状について認識を深めることができた。また、庄原市や三原市から環境調査の依頼を受けており、学生たちもプロ意識を次第に身につけつつあり、教育効果は極めて高かったと考えている。

環境科学科の学生が中心であるが、環境分析能力の習得や直接フィールド調査を行っているので、授業では得られない教育効果があった。一つは、学生が分析技術に対する自信を持ったこと、二つは実際の環境調査を受託することになるのでプロ意識が芽生えたこと、三つにさらに高度な分析技術を習得したいとの要望が強いこと等である。

学生とのベンチャーの最終目標は、学生と NPO 法人を設立し、学生が環境測定を自主的に行い、積極的に環境改善を提案することにある。

外部からの環境調査の要請に応え、また、自らが今後計画する環境測定を通じて、環境の問題点が見えてくるようになったあと、学生による環境改善提案も可能となると考えている。